



今回協力してくださった3人。左から、  
神山荘で常勤のヘルパーをして1年目の保坂 由紀子さん、  
6年目の山本 敬子さん、3年目の梁 洋一さん

話を伺うと、皆さん口をそろえてこの仕事は一日や二日で全部を理解することはできないといま  
す。ヘルパーも利用者のかたも、  
お互い人ですから、始めのうちは  
なかなか心を開いてくれなかった  
り、慣れると今度は、サービス内  
容以上のことを求められたりしま  
す。でもそこは納得してもらえ  
るまで説明します。この仕事はあく  
まで、在宅で日常生活するための  
支援であって、決して家政婦では  
ありません。病院や施設に入るこ  
となく自立した生活を続けるため  
の後押しがヘルパーの職務です。  
しかしヘルパーの側にしても、  
最初はどこまで援助すればいいの  
か、そして他人のお宅にお邪魔す

るので、その境目に戸惑うそうです。  
ヘルパーの皆さんは利用者が心を  
開き、安心してサービスを受けら  
れるように日々努力しています。  
そうして、利用しているかたに  
とっては、ヘルパーはなくてはな  
らない家族の一員となっています。  
そんな中、他人が家に入るのに抵  
抗を感じ、サービスを受けないま  
ま重い負担を背負っている家庭が  
あることは残念なことです。  
過密なスケジュールをこなすな  
がらも「サービスを終えたあとの、  
利用者の『ありがたう』の一言が  
最高の励みになります。」と、す  
ばらしい笑顔で話してください  
ました。



13:00

午後一番は  
買い物のため、  
一人暮らしの  
男性宅へ。日  
常の家事は一

人でできるものの、足が不自由なので長い距離を歩くことができません。いつものように健康状態を調べたあと、買うものを聞きます。お金はトラブルのないようにきちんと記録し、たいていは自宅から最寄りのスーパーで買い物をします。

14:30

リウマチで体が不自由な男性宅へ。一人で暮らしているため、週に一度、掃除に伺います。本来はサービスを終えたあとゆっくり話をしてお互いコミュニケーションをとりたいのですが、スケジュールの関係上、掃除をしながらの会話になってしまいます。中には一日中だれとも顔を合わせることがない人もいます。一人暮らしのかたにとっては、話し相手が一番必要なことかも知れません。



15:45

朝一番に訪問したお宅へ、調理と掃除をしに行きます。今回も登録ヘルパーに調理を担当してもらいます。利用者それぞれに好みが違うため、調理には特に気を使うそうです。

17:00

今日の訪問をすべて終え、神山荘に戻ります。本日分の個人データをそれぞれ記録し、日誌を書き、一日が終わりました。